

## 東京都高齢者保健福祉計画「中間のまとめ」について

「第7章 認知症施策の総合的な推進」を改めて拝見し、認知症施策の推進に向けて今期はさらに充実した取組を進めていかれることに、大きな期待を抱いております。

4・5頁に記載されている「認知症高齢者の居住場所」と「世帯の状況」はまさに私ども東京都支部が行っている電話相談のデータとも合致します。その現状を踏まえての施策と理解しております。

今期、認知症総合支援事業を推進するにあたり、随所に「知症対応力の向上」が記載されています。認知症対応力については、前回の東京都認知症対策推進会議で、繁田先生が「本人と家族の生活全般をよく理解し、それぞれが、両者の生活の質をいかに上げるか考え対応する力」というような意味でおっしゃっていたと記憶しております。認知症という症状や本人の思い・困難を理解するだけでなく、家族の思いにも寄り添いながら、家族と共に本人のために支援してくれる医療・介護専門職の存在は、心強く、現状を乗り越える大きな力となると信じております。

21頁～25頁を拝見して、何か言葉にならない違和感を覚えたのは、認知症の人ご本人についての現状と課題、施策の方向性が細かく記載されているものの、介護家族の現状についての記載が皆無だったからかもしれません。

「家族がかかえている介護負担を理解し」のような簡単な表現でも結構ですので、挿入していただけると幸いです。

介護負担から精神的に追い詰められている家族に対する施策の一つに、認知症疾患医療センターの相談窓口だけでなく、「臨床心理士による相談窓口」を各区市町村に設置してもらえると心強いと常日頃思っているところです。が、これは余談です。

最後に、東京都医学総合研究所と協働の「日本版 BPSD ケアプログラム」の普及について触れさせていただきます。過日、西田先生をお訪ねし、さまざまお話を伺いました。このケアプログラムは、認知症の人に関わる専門職が中心となりながらも、家族の「家族しか知りえない本人の情報」を得ながら、家族に負担をかけずに、ともに知恵を出し合ってご本人を丸ごと理解した上で、認知症の人と家族が穏やかに生活が送れるよう進めるものとのこと。大いに期待を寄せております。